

平成18年度病害虫発生予察特殊報第5号

平成19年 3月 9日
埼玉県病害虫防除所

- 1 病害虫名 クロスジコバネアブラムシ (Pentalonia nigronervosa Coquerel)
- 2 発生物名 ミョウガ
- 3 発生経過

平成18年11月、県内の施設で水耕栽培されているミョウガにアブラムシの寄生が認められた。

独立行政法人農業環境技術研究所 宮崎昌久氏にこのアブラムシの同定を依頼したところ、本県では未確認だった「クロスジコバネアブラムシ」と判明した。

4 形態及び発生生態

(1) 形態

成虫(無翅)の体長は約1.4mm。体は暗赤褐色で光沢がある。触覚は体長よりも長く、額瘤(触覚台)は顕著に突出する。腹部は球形あるいは卵形で尾片は淡色、角状管は円筒形で中央部やや細くなり、基部と先端部は太くなる。

有翅胎生雌虫は体長約1.25mm、複眼は赤色である。翅は透明、翅脈は暗黒色、前翅の翅斑先端部から生ずる径分脈は途中で中脈とほとんどまたは完全に合一する。後翅は小型、透明、斜脈は1本。前後翅ともに翅脈の両側に接し暗色の帯状紋がある。

(2) 生態及び発生状況

本種は沖縄県及び世界の熱帯地域に広く分布しており、バナナ、カラジウム、ジンジャーなど、バショウ科、ショウガ科、サトイモ科の植物を寄主とする。

(3) 被害

本種はミョウガの未展開の葉裏や半展開葉の表面基半部に群生して吸汁加害する。

5 防除対策

アブラムシ類に登録のある薬剤により防除を行う。

ミョウガ及び野菜類のアブラムシ類に登録のある薬剤(平成19年3月9日現在)

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量	備考
オレート液剤	発生初期～収穫前日まで	-	100倍	野菜類のアブラムシ類で登録
モスピランジェット	花穂の収穫7日前まで (但し、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで)	3回以内	くん煙室容積 400m ³ (床面積200m ² ×高さ2m)当り50g	ミョウガ(花穂)・ミョウガ(茎葉)のアブラムシ類で登録
脂肪酸グリセリド乳剤	収穫前日まで	-	300倍 150～300L/10a	野菜類のアブラムシ類で登録
粘着くん液剤	収穫前日まで	-	100倍 150～300L/10a	野菜類のアブラムシ類、ハダニ類で登録
還元澱粉糖化物液剤	収穫前日まで	-	100倍 100～300L/10a	野菜類のアブラムシ類で登録

参考資料：「日本農業害虫大事典」(全国農村教育協会)
作成協力：独立行政法人農業環境技術研究所 宮崎昌久氏



クロスジコバネアブラムシ



寄生の状況



クロスジコバネアブラムシ（有翅）